

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	工業簿記1 (Industrial Bookkeeping 1) 392086-14600					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL/資格対応科目								

① 授業のねらい・概要
1年次配当の簿記入門では商品売買業における基本的な簿記を学んだ。工業簿記1・2では製造業における簿記を学ぶ。工業簿記1では日商簿記検定2級における工業簿記の範囲の中でも個別原価計算から単純総合原価計算までを学ぶ。本講義は事務・経理職のスペシャリストを目指すために必須の知識であり、日商簿記2級対応科目である。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
スライド資料、レジュメ等はGoogle Classroomを通じて配布する。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
「工業簿記2」「商業簿記1」「商業簿記2」と共に履修することを強く推奨する。
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 費目別計算、個別原価計算、単純総合原価計算に関わる仕訳について、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (ii) 個別原価計算および総合原価計算を用いた原価計算を行うことができ、検定試験レベルの問題を解くことができる。 (iii)
⑥ テキスト（教科書）
滝澤ななみ(2022)『簿記の教科書 日商2級 工業簿記（第7版）』TAC出版 滝澤ななみ(2019)『簿記の問題集 日商2級 工業簿記（第10版）』TAC出版 (2022/1/20 現在では「出版予定」である)
⑦ 参考図書・指定図書
各年度に対応した予想問題集等。必要に応じて紹介する。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 個別および単純総合原価計算の仕訳	難易度の高い検定試験レベルの仕訳問題を解くことができる	標準的な検定試験レベルの仕訳問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの仕訳問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(ii) 個別および総合原価計算による原価の計算	難易度の高い検定試験レベルの原価計算ができる	標準的な検定試験レベルの原価計算問題を合格レベルで解くことができる	検定試験レベルの問題は合格レベルに達していないが、基本的レベルの問題はほぼ正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらであれば正答できる	基本的レベルの原価計算問題について教科書を見ながらでも正答できない。
(iii)					

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%	20%						100%
(i) 個別および単純総合原価計算の仕訳	20%	10%						30%
(ii) 個別および総合原価計算による原価の計算	60%	10%						70%
(iii)								
フィードバックの方法	小テストは採点して返却・解説する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
多くの問題に触れることで本質的な理解を進め、検定試験レベルの問題が簡単に解けるようにしていきたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス、工業簿記の基礎	教科書を読み工業簿記の全体像、および原価の分類について理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
2	工業簿記一巡	教科書を読み、特に「工業簿記における勘定の流れ」を確実に理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
3	材料費会計（実際原価）	教科書の予習では、特に材料の消費単価の決定方法をよく理解しておくこと。（授業には電卓持参）	90分
4	材料費会計（予定原価）	教科書の予習と基本問題演習、特に原価差異の把握と有利不利の判定を理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
5	労務費会計（実際原価）	教科書の予習と基本問題演習、賃金の前月・当月未払と当月支払額の関係から消費額を求める方法を理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
6	労務費会計（予定原価）	教科書の予習と基本問題演習、実際原価の計算方法を復習し、予定消費額との差異の把握を理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
7	経費会計	教科書の予習と基本問題演習、経費の分類と消費額との関係をよく理解しておくこと。（授業には電卓持参）	90分
8	製造間接費会計（実際原価）	教科書の予習と基本問題演習、製造間接費の配賦方法（配賦率・配賦額の計算）を理解しておく。（授業には電卓持参）	90分
9	製造間接費会計（予定原価）	教科書の予習と基本問題演習、特に製造間接費の差異分析を概観しておく。（授業には電卓持参）	90分
10	個別原価計算（原価計算表・勘定の作成）	第9回までの内容を復習し、教科書の個別原価計算に関する基本問題が解けるようにしておく。（授業には電卓持参）	90分
11	個別原価計算（問題演習）	教科書の予習と基本問題演習、問題集の費目別計算、個別原価計算の問題が解けるようにしておく（授業には電卓持参）	90分
12	部門別計算（直接配賦法）	教科書の予習と基本問題演習、部門別配賦表だけではなく勘定連絡を理解しておく（授業には電卓持参）	90分
13	部門別計算（相互配賦法）	教科書の予習と基本問題演習、直接配賦法と相互配賦法の違い、製造部門費の予定配賦を勘定連絡とともに押さえておく。（授業には電卓持参）	90分

		参)	
14	総合原価計算とは	教科書の予習と基本問題演習、単純総合原価計算について全体像を掴んでおく。(授業には電卓持参)	90分
15	単純総合原価計算	教科書の単純総合原価計算の基本問題が解けるようにしておく。(授業には電卓持参)	90分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型ALを採用する。適宜小テストや課題等を行い、その解説を行うことで知識の定着を図る。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	